

2005年1月4日発行

熊本県地域福祉メールマガジン

月刊「みんなでたのしく輪になって」No.17

【発行】 熊本県健康福祉部 福祉のまちづくり課 地域福祉企画班

昨年世相を象徴する漢字に『災』が決まったように、内外ともに天災、人災等つらい出来事が目立ちました。しかも「好事は門を出でず。」と言われるように、明るい話題は埋もれがちです。

元気の源が「希望」や「可能性」であるとするならば、有益な情報はそれらを導き出すヒントとなることでしょう。元気で明るい熊本づくりに向けて、今年も、福祉でまちづくりに関する情報を発信していきたいと思えます。

【今月の内容】

《トピックス》

- 1 動き始まる。ホームレス支援
- 2 本当に地域の中で暮らしていくためへの挑戦
「高齢社会福祉先駆的事業」～水俣市社協の取り組み～
- 3 第14回全国ボランティアフェスティバル火の国くまもと
第2回実行委員会開催される

《地域情報》

- 1 福祉コミュニティ特区で障害児等をサポート
～美里町社協、デイサービスセンター陽光園(美里町)での取り組み～
- 2 大空と大地のなかで！ 小規模作業所「ふいーんど」

《お知らせ》

- 1 7団体に決定 地域の縁がわづくり推進事業
- 2 市町村社協の合併進む 本年3月までに68法人へ
- 3 第14回全国ボランティアフェスティバル火の国くまもと キャッチフレーズ募集

トピックス

1 動き始まる ホームレス支援

皆さんはホームレスの方に対して、どのようなイメージをお持ちでしょうか。

よく、「昼から何もせず怠けている。」「好きでやっているのだから、支援してもしようが

ない。」、「やる気が感じられない。」、「他に支援すべき人は、いっぱいいるのだから、ホームレスまでは手がまわらない。」等の声を耳にします。

果たしてそうでしょうか。それは外見だけ見ての判断だったり、ホームレスとは一般的にそういうものという思いこみなどからくる言葉なのではないでしょうか。

私も今年度、この事業を担当するまでは、そのような思いを持っていたことも否認しません。

しかし、「このままでは、放っておかれん。」と、ホームレスの方を一生懸命に支援されているボランティアの姿に接したり、そのボランティアの方々と一緒に約30名近くのホームレスの方に会って話を聞き、気さくな人柄にふれ、その人が歩んできた人生や、今置かれている立場を聞いたりするうちに、まずは関係者が偏見をなくし、できることからでも始めなくてはという思いをもちました。

(偏見を少しでもなくすためには、直接会うのが一番ですね。)

確かに色々なホームレスの方がおられます。でもそれはどこの世界にもあることで、1000人の人がいれば1000人がそれぞれの違いを持っています。一番気をつけなければならないのは「ホームレス」をひとつの枠にはめ込んでしまわないことではないでしょうか。

また長年にわたって、ホームレスの方を支援している方は、ホームレスは単に「家がない。」という物理的な問題だけでなく、家族関係の喪失や人と人との関係の喪失、また色々な希望を喪失した人が多い。希望を見出せるような関わりが必要。と言われていました。

このように考えていくと、ホームレス支援については、単に物理的な支援だけでなく、その生き方も尊重し、きめ細かで総合的、継続的な支援が必要だと思えます。

つまり、ホームレスの方への自立支援、緊急時対応というひとつの福祉基盤をつくるために、既存の各種事業を横断的に有効活用したり、またフォーマルサービスで十分でない部分を補うために、新たなサービス(インフォーマルサービス)をつくりだしていくことが求められています。そのためには、福祉、保健、医療、労働等の行政関係者、民間団体、NPO、ボランティア、民生委員、地域住民等が、ホームレスに対する関心や共通理解を持ち、それぞれにできる支援を行うと同時に、ホームレスを新たに生まない地域づくりを進めていくことが必要です。

ホームレスの自立支援を進めていくためには“地域福祉”の視点が不可欠であり、県でも“地域ささえ愛プラン”の中に位置づけ事業展開しています。

具体的には、ホームレス対策に係る庁内連絡会議の開催及び既存施策をまとめた「熊本県関係機関の取組みについて」の配布、「熊本市ホームレス問題連絡協議会」への参画、熊本市担当者との連絡調整、民間団体(熊本県社会福祉士会、ボランティア団体「熊本ホームレス自立支援の会」、善意銀行、県共同募金会、県社会福祉協議会)との連絡会議、平成16年度パートナーシップ・モデル事業を活用した熊本県社会福祉士会への事業委託(委託内容:自立を希望するホームレスへの自立支援及び対応事例集の作成)などを行っています。

特に「熊本県社会福祉士会」は、熊本、玉名、上益城、八代ブロックでホームレスの方への個別巡回相談などを実施予定であり、各市町村や市町村社協におかれましても協力や支援をよろしくお願いいたします。

ホームレス支援については、ホームレスの方を排除するのではなく、地域社会の一員として位置づけ、地域住民への啓発や広報活動、積極的な相談援助、地域の社会資源の活用、関係機関とのネットワークづくり、NPOやボランティアとの連携や支援などが必要です。

また、とりあえずやってみることで、地域の色々な課題も見えてくるのではないのでしょうか。

それぞれの地域で今までに実施されたホームレスの方への支援の取組事例があれば情報提供をお願いします。

そのような取組事例は皆様に情報としてお返ししますので、それらも参考に各地域において、きめ細かで、総合的、継続的なホームレスの方への支援体制をつくっていただけたらと思っています。

2 本当に地域の中で暮らしていくためへの挑戦 プロジェクト『M』

「高齢社会福祉先駆的事業」 ～ 水俣市社会福祉協議会の取り組み ～

水俣市社協では、高齢者から子どもまですべての方々を対象に、介護保健サービスや移送サービス、給食サービス、ふれあい学童クラブなどの各種在宅福祉サービスの提供に取り組んできました。特に、平成6年度からは「ふれあいのまちづくり事業」の指定をきっかけに、小地域ネットワーク事業を積極的に展開し、ローテーションを取り入れたボランティアによる訪問活動は、水俣方式の「ふれあいネットワーク」として全国的にも有名です。

こうした小地域ネットワーク事業が評価され、平成15年10月から3年間にわたり、財団法人日本生命財団の先駆的事業助成（総額1,300万円）の対象に選ばれました。現在、プロジェクト『M』（ ）と銘打って、福祉力の向上とこれに伴う地域の活性化を目指しています。

地域の中で安心して暮らして行くためには、公的サービスの充実と住民による支えあいが必要なことから、今回のプロジェクト『M』では、住民代表約30名で組織する委員会を中心に住民参加で事業推進を図り、市内で活動中の「ふれあいネットワーク」（小地域ネットワーク事業）をさらに発展、強化する取組みに挑戦しています。

さらに、地域福祉型福祉サービスを浸透させるため、市内で積極的にふれあいネットワーク活動に取り組んでいる地域に、住民参加型の新たな福祉活動の場としてのグループリビングを開設し、このことを誘い水として様々な事業を展開することにしています。

現在、進められている主な事業は、以下のとおりです。

- ・福祉でまちづくり推進委員会の運営 …… 会議、研修会の開催
- ・グループリビングの設立 …… 高齢者の心の寄り処となる活動拠点の設置
- ・どこでもスロープ …… 折りたたみ式携帯用スロープの整備と、店舗等への貸出

- ・住民ワークショップ …… 意見交換、ニーズ把握
- ・出前福祉講座 …… 福祉に関する勉強会、健康教室等の開催による予防活動
- ・情報発信、ふれあい活動実態調査、シンポジウム、ビデオ制作 等

これらの事業をとおして、福祉でまちづくりの新たな活動が「水俣方式」として再び全国に発信されていくことを期待したいものです。

「M」には、Minamata:水俣、More:よりすぐれた、Meet:出会い、Move:感動、Make:作る などの意味が込められています。

3 第14回全国ボランティアフェスティバル火の国くまもと 第2回実行委員会開催される

平成17年10月29日・30日の両日、熊本県で開催される「第14回全国ボランティアフェスティバル火の国くまもと」の実行委員会第2回総会が、去る12月6日に熊本市で開催されました。

総会では、福祉関係団体、経済団体など各界から約160人が出席し、これまでの進捗状況の報告の後、主催団体の役員交代に伴う委員の役員の選任、開催素案などを承認しました。

<大会概要>

1 名称

第14回全国ボランティアフェスティバル火の国くまもと

2 主催者

第14回全国ボランティアフェスティバル推進協議会

第14回全国ボランティアフェスティバル火の国くまもと実行委員会

3 日程

平成17年10月29日(土)～30日(日)

4 会場

メイン会場：グランメッセ熊本（益城町）熊本市民会館

ブロック会場：県内6ブロックで開催

県央（熊本市） 県北（山鹿市） 阿蘇、県南（水俣市）

人吉・球磨（人吉市） 天草（本渡市）

5 大会テーマは、「燃えよボランティア 火の国の集い 熱^{あつ}か心わがまちに」

6 事業内容

開会式

テーマトーク（大会基調トーク）

ふれあい広場・交流広場（ボランティア活動紹介、観光物産PR等）

レセプション・交流パーティー

テーマ別の集い（分科会）

ボランティアトーク（熊本ゆかりの有名人によるボランティア活動を紹介）
引継式（次期開催県への引継ぎ）

地域情報

1 福祉コミュニティ特区で障害児等をサポート

～ 美里町社協、デイサービスセンター陽光園（美里町）での取り組み ～

松橋養護学校に通っている美里町在住の A くん。朝は家族の車で通学バスの始発点（甲佐町）に向かいます。甲佐町からは通学バスで登校。学校が終わって、下校の通学バスが午後 4 時頃に甲佐町の終点に到着します。ここからは、高齢者のデイサービスセンターが障害児も受け入れているため、そちらに向かいます。甲佐からデイサービスセンターへはボランティア有償運送が利用できます。デイサービスが終わって、家族の車で家に帰ります。今日も充実した一日でした…。

熊本県と宇城地域 1 市 8 町では、平成 15 年 4 月に「福祉コミュニティ特区」の認定を受け、現在、「指定通所介護事業所等における知的障害者及び障害児の受入事業」及び「NPO 等によるボランティア輸送としての有償運送における使用車両の拡大事業」を行っています。

今回は、障害児の受け入れを行っている、美里町にあるデイサービスセンター陽光園（社会福祉法人千寿会）と、ボランティア有償運送を行っている美里町社協をご紹介します。

美里町社協では、ボランティア有償運送を平成 15 年 9 月から行っており、現在、リフト・スロープ等特殊な設備を設けた福祉車両 2 台と特殊な設備のない一般の車両 2 台の、計 4 台の車両を使用しています。障害児が養護学校の登下校に利用することが多い状況です。

陽光園の障害児デイを利用されている方で、養護学校から通学バスの送迎（甲佐町が終点）を利用される方は、美里町社協が甲佐町から陽光園までの送迎を行っています。

高齢者のデイサービスセンター（指定通所介護事業所）である陽光園では、定員の空き部分を活用して障害児のデイサービスを行っており、現在、小学生 5 名、中学生 2 名の方が利用されています。

特区において高齢者デイサービスセンターで障害児の受け入れが認められているのは、通常の障害児デイと同じく小学生までですが、陽光園では、小学 6 年生だった昨年より受け入れていた中学 1 年生も引き続き自主事業としてデイサービスを行っています。

陽光園で受け入れた障害児に、よりきめ細かなケアをするために活躍しているのが、地元の高校生を中心としたボランティアのみなさんです。特に夏休み期間はたくさんのボランティアが来られ、交流を深めています。

このような取り組みの効果として、これまでデイサービスを利用できなかった方や遠方のデイサービス事業所まで出向いていた方が、身近なところでデイサービスを利用できるようになったことや、家族に代わって送迎を行う事業者が生まれることにより、障害児や高齢者等の介護にあたる方のレスパイトケアにつながっていることなどがあげられます。

今後も、同様の取り組みが福祉コミュニティ特区内、ひいては県内に広まっていくことを期待しています。

2 大空と大地のなかで！小規模作業所「ふいーるど」

～小規模授産施設「ふいーるど」～

「農業ならまかせとけ」といった顔で、麦わら帽子に作業着に長靴で広い田んぼをコンバインで稲刈りしています。かたや部屋のなかで、女性達が粘土細工でカエルや花など、色鮮やかな作品を作り上げています。できた作品を梨の木、松ぼっくりなどとあわせれば、鹿央町の豊かな自然を活かした飾り物ができあがりです。木工を扱うのはもっぱら若い兄ちゃん達の仕事です。

これが「ふいーるど」に集まる仲間達の1日の生活です。作業が終われば面々の家庭に帰っていきませんが、隣のグループホームに入居している6人は仲間達とのふれあいが夜まで続きます。

「障害者も健常者と同じで、細かい作業が好きな人もいれば、大工仕事が好きな人もいます。また、自然のなかで農作業をしたり山の宝を探すのが好きな人もいます。人それぞれなんです。」と語る施設長。できるだけ障害者のニーズに応えたいとトラックで稲を運んだり、作品を販売にいたり、孤軍奮闘の毎日です。

みんながそれぞれ好きな事をやっているの、全員鹿央町の豊かな自然に負けないぐらいの笑顔です。その明るさに近所の人も梨や野菜を持って来てくれる。「しかしながら、まだ十分に地域に受け入れられているとは思えないので毎日大きな声で挨拶するように心掛けています。行事等にも積極的に参加しています。」と施設長。

現在、15名程の障害者が通所し、6名の方がグループホームに入所していますが、ここに住みたい、ここに通いたいと要望する人が増えているのでどうしようかと思案中とのこと。この超明るい作業所に引きつけられる障害者はますます増えていくのではないか思えるのは当然の道理かも！

お知らせ

1 先駆的な地域福祉の拠点（縁がわ）づくりを行う7団体に事業立ち上げの補助金交付を決定

今年度、地域福祉活動団体からの公募により実施しました「地域の縁がわづくり推進事業費補助金」につきましては、6,000千円の予算に対して7団体から、総額6,980千円の補助申請がありました。

事業内容等について、県庁外部の有識者からなる地域福祉推進委員会での厳正な審査を踏まえ、下記の団体に補助金を交付することとしましたのでお知らせします。

補助金交付団体一覧

団体名	サービス概要	対象地域	交付決定額 (千円)
NPO法人とら太の会	コミュニティレストランの開設 (誰もが集える昼食サービス、お茶飲み)	八代市及び 近隣町村	530

植木町手をつなぐ育成会	ふれあい型小規模作業所 (住民交流サロン、ショップ、工房)	植木町及び近隣町村	600
すずかけ台自治会 会	常設型住民交流サロン ・お茶飲み、おしゃべりの場 ・介護・子育て相談窓口 ・ギャラリー(作品展示、発表の場) ・読書コーナー	合志町及び近隣町村	2,000
小規模作業所菊池ひまわりの会	子育てサポーター 療育事業の充実による障害者(児)の縁がわづくり(地域と共に)	菊池市及び近隣町村	500
NPO法人正心会	小規模多機能型福祉ホーム ・高齢者デイサービス ・知的障害者のグループホーム ・学童保育 ・住民交流サロン	不知火町及び近隣町村	1,020
小規模作業所なすな工房	ボランティアと共にパン屋さん パン・コーヒーや障害者の作品をキーワードにした地域住民&障害者&子どもたちのふれあい拠点	富合町及び近隣町村	350
NPO法人 ステップバイステップ	ほっと・わいわいサロン ・障害者のサロン&住民交流サロン ・子どもデイサービス	本渡市及び近隣町村	1,000
		総計	6,000

2 市町村社協の合併進む 本年3月までには68法人へ

県内の市町村合併は、平成15年度にあさぎり町と上天草市が発足したのに続いて、16年度には各地域で具体化し、今年の3月までに新たに4市、4町が誕生することになりました。

これに伴い、それぞれの地域の市町村社協も、市町村と同日付けで法人合併をするための準備を進めてきました。市町村社協の合併認可状況は次のとおりで、本年度末には68法人(14市、44町、10村)となります。

市町村社協には、他の民間事業者や社会福祉法人では行いにくいサービスについて、重点的に取り組んでいく役割を担うことが求められています。組織が大きくなる中で、事業内容も多方面にわたり、活動領域も広域化することから、今後、新たな経営環境の中で法人運営のあり方を見直すことが必要になってくるでしょう。

合併を機に、社協としての原点に立ち返り、策定された基本構想等のビジョンを達成するための取組みや、地域のニーズを踏まえた事業を積極的に開拓していくことを期待したいものです。

No	社協名	認可日	合併期日	合併社協数	市町村社協の総数
1	あさぎり町	H14.12.24	H15.4.1	1町4村	90
2	上天草市	H15.12.22	H16.3.31	4町	87
3	美里町	H16.7.26	H16.11.1	2町	86
4	芦北町	H16.9.14	H17.1.1	2町	85
5	宇城市	H16.10.15	H17.1.15	5町	81
6	山鹿市	H16.10.20	H17.1.15	1市4町	77

7	山都町	H16.11. 5	H17. 2.11	2町1村	7 5
8	南阿蘇村	H16.11. 9	H17. 2.13	3村	7 3
9	阿蘇市	H16.11.17	H17. 2.11	2町1村	7 1
10	菊池市	H17. 1月予定	H17. 3.22	1市2町1村	6 8

3 「第14回全国ボランティアフェスティバル火の国くまもと」

～ キャッチフレーズを募集します ～ ふるってご応募ください

1 趣 旨

様々なボランティア活動を実践している人や関心のある人たちが全国から集い、情報交換や交流を深めることを目的として、平成17年10月29日(土)・30日(日)にグランメッセ熊本を主会場に県内6ブロックにおいて第14回全国ボランティアフェスティバル火の国くまもとが開催されます。

この大会の実施に向け気運を高めるとともに、各ブロック事業の開催に広く関心と親しみを持っていただくことを目的として、各ブロックの大会キャッチフレーズを募集します。

2 募集内容

(1) 応募資格 どなたでも応募できます。

(2) 作品内容

各ブロックのキャッチフレーズとして、地域らしさや各地域のボランティア活動の特色をイメージさせるもの。(20字～30字程度)

自作未発表のものに限ります。

各ブロックの地域構成は次のとおりです。

県央ブロック・・・熊本市・宇城地域・上益城地域

県北ブロック・・・荒尾・玉名地域、山鹿・鹿本地域、菊池地域

県南ブロック・・・八代地域、水俣・芦北地域

阿蘇ブロック・・・阿蘇地域

人吉・球磨ブロック・・・人吉・球磨地域

天草ブロック・・・天草地域

(3) 応募方法

官製はがきまたは、FAX・電子メールを使用し、一枚(送信)につき一点を記入してください。

簡単な説明(キャッチフレーズに込める思いなど)、住所、氏名、年齢、職業(学校名、学年)、電話番号を記入してください。

応募はおひとり何点でも結構です。

(4) 応募締切

平成17年1月31日(月) (当日消印有効)

(5) 賞

優秀賞 各ブロック1点ずつの計6点 (賞状と副賞2万円)

(ただし、受賞者が高校生以下の場合は、金額相当の図書券とします。)

(6) その他

各ブロックの優秀作品を使用しますが、一部文案を加筆修正することもあります。

応募いただいた作品の著作権は、第14回全国ボランティアフェスティバル火の国くまもと実行委員会に帰属します。

応募いただいた作品は返却しません。

3 審査及び発表

(1) 審査

・第14回全国ボランティアフェスティバル火の国くまもと実行委員会で決定します。

(2) 発表

・入賞者に直接通知するほか、マスコミなどで発表します。(2月下旬予定)

4 応募先及び問い合わせ先

〒860-0842 熊本市南千反畑町3番7号 熊本県総合福祉センター内

第14回全国ボランティアフェスティバル火の国くまもと実行委員会事務局

「キャッチフレーズ募集係」

TEL (096)324-5456 FAX (096)324-5427

E-mail vof@kumashakyo.jp

熊本県地域福祉メールマガジン

月刊「みんなでたのしく輪になって」 No. 17

【発行】 熊本県健康福祉部福祉のまちづくり課地域福祉企画班

記載内容に関するお問い合わせ、情報提供、ご意見、配信の解除、メールアドレスの変更など一切の連絡は、熊本県健康福祉部 福祉のまちづくり課 地域福祉企画班へお願いします。

E-mail: fukushimati@pref.kumamoto.lg.jp

TEL: 096-383-1185

FAX: 096-387-5992